

Book Review

蛍光眼底造影ケーススタディ エキスパートはFA・IA・OCTAをこう読み解く

飯田 知弘 編

近年、眼底疾患に対してさまざまな原理に基づいた画像検査法が発達してきており、一つの眼底疾患に対して多面的に種々の画像検査を行うことによって、より確かに、そして精密に臨床診断を行う multimodal imaging が主流となってきている。眼底疾患に対して造影剤を用いて異常を検出する蛍光眼底造影は、フルオレセイン蛍光眼底造影ではおよそ 60 年、インドシアニングリーン蛍光眼底造影では約 40 年の歴史を持つ画像検査であるが、これらの造影は、現在まで実に多くの眼底疾患の疾患概念の確立や病態解明、治療評価に深く寄与し、眼底画像診断の gold standard としての歴史を誇ってきた。しかし近年、精度の高い光干渉断層計（OCT）や光干渉断層血管撮影（OCT angiography）をはじめとする新しい画像診断に目を奪われ、蛍光眼底造影の読影の系統的な学習はなおざりにされる傾向がある。

本書では、蛍光眼底造影の基礎が学べる総論に続き、25 項目の疾患・病態について、「point」、「疾患の概要」、「ケースで学ぶ所見の読み方」、「押さえておきたい読影ポイント」、「バリエーションとピットフォー

ル」の 6 つの面から蛍光眼底造影の読影ポイントと知識がエキスパートの筆者の先生方によって要領よくまとめられている。呈示症例とその造影写真、その他の画像検査写真は全て文句のつけようがない典型的で綺麗な画像である。このテキストを通読することによって、見事な写真と解説を基に、極めて実践的な形で蛍光眼底造影の知識を自然に学ぶことができる。さらにかんりの項目では、眼底自発蛍光や最新の OCT angiography の画像も解説の中に組み入れられており、multimodal imaging の観点から病態の新しい解釈を学ぶこともできる。

蛍光眼底造影を初めて学ぶ方、そして multimodal imaging の観点から今一度系統的に蛍光眼底造影を学び直し、診断力をアップしたい先生方に広くお薦めしたいニューテキストである。

関西医大主任教授・眼科学
高橋寛二

B5・頁 312 2019 年 4 月
定価：本体 9,000 円＋税
[ISBN978-4-260-03841-6] 医学書院刊